



大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

横浜市立帷子小学校
学校だよりNo.6 10月号
平成30年9月28日
横浜市保土ケ谷区
川辺町65-1
TEL045-335-5896

自分たちの力で、そして、助け合って

校長 齋藤 容二

秋分が過ぎ、残暑も和らいでまいりました。保護者・地域の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。子どもたちは、明日行われるカルガモ運動会へ向けて、毎日一生懸命に準備や練習を重ねてきています。近隣の方々には、この数週間に渡って朝から大きな音を響かせてまいりましたこと、心よりお詫び申し上げますとともに、どうか、運動会に向け頑張る子どもたちに免じて、ご理解をいただけますようお願い申し上げます。

9月になってからも、北海道では大きな地震があり、多くの方が被害に遭われました。一日も早い復旧や平穏な日常復帰を願うばかりです。

先日のテレビニュースでは、被災地での復旧のために大勢のボランティアの方が集まり、被災した家の内外の片付けを手伝っているとの報道がありました。休日に、無償で、私費を投じて被災地に向かい、大変な作業を行っているのです。平成に入ってから起こった数々の災害のたびに、そのようにボランティアの方が集まるようになったと記憶しています。中には、自分たちが被災したときに支援を受けたので、その恩返しとして、災害が起こるとボランティアの活動に参加している、という方もいました。知り合いの教員には、今でも毎年東北の被災地にボランティアのために出向いているという方もいます。助け合いの輪の広がり、つながりを感じます。

帷子小学校には地域防災拠点が設定されていて、震度5強以上の地震や風水害の危険が迫ったときなど、拠点が開設されます。過日、その地域防災拠点運営委員会が開かれ、10月14日（日）に行われる地域防災拠点訓練の内容について話し合いを行いました。有事の際にはどのように準備、設営を行い、避難してきた方への対応を行うのか、ということについて遅くまで、そして細かなところまで確認をしました。この委員会には学校関係者や区役所の担当者も参加しているのですが、いざ、災害発生の際には、運営委員の方々を中心に地域のみなさんの力によって、避難者への対応をしていくことが求められます。言い替えますと、防災拠点の運営において一番大切なことは、避難してきたみなさんの主体的な協力であるということです。

ボランティア活動も、この防災拠点の運営のことも、自分たちの力で、主体的に、自分たちの生活・環境をよくしていこう、自分一人のことでなく他の人と力を合わせて状況を改善していこう、といった理念があると言えます。これは、一人ひとりが、社会に対してより主体的に参加し、自らかかわっていこうという「社会参画意識」とも言えます。教育では、自己の力の伸長だけでなく、どのように社会とかかわり持続可能でよりよい社会を実現していくか、という意識を育て、実践力を培っていくことも大切な内容となります。

帷子小学校では、「子どもたちが創意工夫をしながら、自分たちで創りあげていく運動会」をめざし、取り組んできました。より「よい運動会」となるよう、子どもたち自身が考え、話し合い、協力してつくってきました。明日の運動会では、是非、その子どもたちの主体的な姿を見ていただければ幸いです。そして、機会がありましたらご感想を学校までお寄せください。運動会実施に向けては、PTAの会長様はじめ、役員、運動会委員の皆様には多くのお力をいただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

前期終了が間近です。後期もすぐに始まります。保護者・地域の皆様には、今後とも帷子小学校の子どもたちのためにお力をいただけますよう、どうぞよろしく願いいたします。